

良質な石炭の確保と煉炭技術の開発

軍艦は水と同様、良質な石炭(無煙炭)を必要とした。

◆ 日本の石炭は有煙炭が主で、日露戦争まで特に戦闘時は英国のカーデフ炭を使用

参考: 煤の多い有煙炭は特に水管式の缶には悪影響

◆ 英国炭に代わるものとして、煉炭技術を検討。横須賀造船所で試験、確認を実施。

◆ 明治38年煉炭製造を開始

◆ 明治39年重油燃料の採用を決定

◆ 大正期まで、石炭と重油の混焼方式を採用。

◆ その後タービン機関の採用に伴い、重油専燃となる。

(日本海軍史5巻P239-248参照)